

Hokkaido University News

# 北大時報

平成27年

9

No. 738 September 2015

台北医学大学と大学間交流協定を締結  
国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) と連携協力協定を締結



## 1 Hokkaidoサマー・インスティテュートと海外ラーニング・サテライト

### ■ 全学ニュース

- 2 台北医学大学と大学間交流協定を締結
- 2 国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）と連携協力協定を締結
- 3 第13回産学官連携功労者表彰に本学から2名が受賞
- 3 独立行政法人日本学術振興会 平成26年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から2名
- 4 札幌キャンパスを駆け抜ける ―2015北海道マラソン―
- 5 北大フロンティア基金
- 6 平成27年度オープンキャンパスを開催
- 7 「北海道大学進学相談会」を東京で開催
- 8 現代日本学プログラム課程特別講演会を開催
- 8 現代日本学プログラム課程学生が新十津川町観光資源発掘に協力
- 9 留学生センター日本語研修コース修了式並びに同コース、日本語・日本文化研修コース(日研コース)及び北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)合同修了祝賀会を開催
- 10 日本語教授法ワークショップを開催
- 10 平成27年度教員免許状更新講習を開催
- 11 第2回新任教員向けキャンパスツアーを開催
- 12 函館キャンパスで障害学生支援研修会を開催
- 12 第35回創成科学サロン「今、なぜ北極がホットなのか?」&夏の宴を開催
- 13 イノベーション・ジャパン2015に出展
- 14 平成27年度「ふるさと北海道応援フォーラム」に参加

### ■ 部局ニュース

- 15 歯学研究科・歯学部がカロリンスカ研究所歯学研究科と部局間交流協定を締結
- 16 教育学部でESDキャンパスアジア・プログラム2015（北大プログラム）を開催
- 17 水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を実施
- 18 平成27年度水産学部公開講座「津軽海峡学」が終了
- 18 法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「表現の自由と秩序」が終了



水産科学研究院  
「ひらめき☆ときめきサイエンス  
～ようこそ大学の研究室へ～」



法学研究科  
サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における  
実務的課題－著作権・不正競争・商標・意匠等－」



国立研究開発法人海洋研究開発機構  
(JAMSTEC)と連携協力協定を締結



2015北海道マラソン

- 19 法学研究科でサマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題－著作権・不正競争・商標・意匠等－」を開催
- 20 公共政策大学院が「地方議員向けサマースクール」を開催－地方自治体における空き家対策のあり方について討議－
- 21 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナーを開催
- 22 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 22 薬学研究院が「第6回薬学研究院研究発表会」を開催
- 23 スラブ・ユーラシア研究センターで2015年度夏期シンポジウム「ロシアとグローバルヒストリー」を開催
- 23 附属図書館で北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)運用10周年記念展示を実施
- 24 理学研究院国際化支援室主催・附属図書館共催イベント第11回「Sci-Tech Talk in English: Welcome to Pluto」を開催
- 25 Hokkaidoサマー・インスティテュート・トライアル「課題解決の手法を学ぶ2+2日間 (Part 1)」を開催

### ■ レクリエーション

- 26 学内教職員ソフトボール大会の開催

### ■ 学内規程 27

### ■ 研修

- 27 平成27年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）
- 28 平成27年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修
- 28 平成27年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

### ■ 表敬訪問 29

### ■ 人事 30

- 31 新任教授紹介

### ■ 訃報

- 32 名誉教授 谷口 和彌 氏



公共政策大学院  
「地方議員向けサマースクール」



スラブ・ユーラシア研究センター  
2015年度夏期シンポジウム  
「ロシアとグローバルヒストリー」

表紙：ESDキャンパスアジア・プログラム2015（関連記事16頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景㊦ 移ろいゆく季節の中で

## Hokkaidoサマー・インスティテュート と海外ラーニング・サテライト

理事・副学長 う え だ い ち ろ う  
上田 一郎



北海道大学では、「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）の採択を受けて様々な事業が開始されました。事業の大きな目標は、「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」に掲げる「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を実現することです。このため教育においては、本学の学生に世界に通用するプログラムを提供することが大切です。その一環として、本学の教員が海外の大学やコンソーシアム等の教授陣と共同で英語による教育プログラムを開講し、学生が様々な国の学生とともに学ぶ環境を本学に作ります。

本学で開講する場合はHokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）として、また海外で行う場合は海外ラーニング・サテライトとして展開します。

### Hokkaidoサマー・インスティテュート

HSIは、海外の大学から研究者を招聘して共同で科目を開講するだけでなく、本学の教員が今までも開講している科目を英語で行うことも含めて、北大のキャンパスが真に国際化することを目標にしています。今年度は「トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業（トップコラボ事業）」の一環として試行されました。現在、来年度の本格実施に向けて鋭意準備中です。来年度は、38プログラム71科目が実施される予定です。

HSIに登録される科目の運営は国際本部で行います。原則として、第2学期の6月第1週からの9週間を3週間ずつに区切り実施していきます。授業科目はウェブで公開されるため、他大学や海外の大学の学生・大学院生はその科目を見てウェブで参加登録を行います。大学院の科目は大学院共通授業科目として、また学部の場合は国際交流科目として登録してもらいます。本学の大学院生が部局の専門

科目として履修するものであっても、大学院共通授業科目として登録することで、ウェブで登録した海外や他大学の大学院生も国際本部で管理して履修できるようにする予定です。また登録した海外の学生・大学院生が本学の講義を受講する資格があるか否か、あるいは問題がないかを判断するのも重要で、その手続きについても検討しています。海外より招聘する教授陣は、原則として本学の非常勤講師になっていただきます。こうした運営を行うために、総長室の教育改革室、高等教育推進機構、情報環境推進本部、及び事務局の関連部署等の先生方や職員の皆様に多大なご協力をいただいております。心よりお礼申し上げます。

なお、ウェブでの授業科目の公開は、早ければ11月から行う予定です。

### 海外ラーニング・サテライト

海外ラーニング・サテライトは、昨年度まで行われていた国際交流事業基金による海外教育交流支援事業の後継として位置づけられます。本プログラムを開講するには、1) 海外で開講する、2) 本学の教員が教授する、3) 本学と海外大学の学生・大学院生がともに受講する、4) 履修した学生・大学院生に本学の単位もしくは海外大学等の単位が与えられる、これら4つが条件となります。今年度は16件のプログラムが行われています。

こうしたプログラムは、教育の国際化に重要であると同時に、多様な教授陣と学生・大学院生が集う場として研究にとっても刺激的な場となることを願っております。本学の国際化には他にも学部英語教育の充実など様々なプログラムが同時に新しく生まれようとしています。教職員の皆様のご支援をお願いする次第です。



## ■全学ニュース

# 台北医学大学と大学間交流協定を締結



調印式後の記念写真

8月28日（金）、台湾の台北医学大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を行いました。

調印式には、台北医学大学からChien-Huang Lin副学長ら8名、本学から山口佳三総長、笠原正典医学研究科長、寶金清博北海道大学病院長、伊達広行

保健科学研究院長、佐藤美洋薬学研究院副研究院長ら6名が出席しました。

台北医学大学は1960年に設立された大学です。医学部、口腔学部、薬学部、看護学部、公共衛生栄養学部、医療科学技術部、人文社会科学部の7学部を有し、学生約6,000人と教職員約



署名後の山口総長とLin副学長（左）

1,800人が在籍しています。

本学では医学研究科をはじめとして、大学病院、薬学研究院及び保健科学研究院でも、それぞれ同大学との交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）

# 国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）と連携協力協定を締結

本学と国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）は、9月1日（火）、連携協力協定を締結しました。

本協定は、両機関の連携・協力を推進し、相互の研究開発能力及び人材を生かして総合力を発揮することにより、学術研究と教育の発展、並びに海洋科学技術の向上等に、新たな重要な役割を果たすことを目的としています。

本学事務局1階第1会議室Aで行われた締結式では、まず、本学理学研究科の見延庄士郎教授より協定の概要についての説明が行われ、続いて双方の

関係者が見守る中、山口佳三総長及びJAMSTECの平朝彦理事長による協定書の署名が行われました。最後に、山口総長と平理事長からそれぞれ挨拶があり、締結式は滞りなく終了しました。

その後、引き続き同会場にて、連携協力の具体的な実施内容について報告・協議することを目的として、第1回連携協議会を開催しました。テーマ毎に設置した4つの分科会からの報告があり、活発な質疑応答が行われました。

協議会終了後には、低温科学研究所、同位体顕微鏡システム等の施設見

学及び懇親会も行われ、関係者は意見交換等により親睦を深めました。

本学とJAMSTECは、これまで海洋科学技術分野全般にわたって、個別の研究課題毎に協力関係を構築し、交流を積み重ねてきました。この度の連携協力協定により、相互に協力可能な全ての分野において、それぞれの研究開発、教育・人材育成などの具体的な連携協力を効果的に実施していくこととしています。

（創成研究機構）



締結式で握手を交わす山口総長と平理事長（右）



第1回連携協議会の様子



施設見学の様子

## 第13回産学官連携功労者表彰に本学から2名が受賞

この度、本学の産学官連携事例が、「企業、大学、公的研究機関等の産学官連携活動における優れた成功事例」

として産学官連携功労者表彰 文部科学大臣賞を受賞しました。8月28日（金）に東京ビッグサイトで開催された授賞

式には、本学の2名の教員が出席しました。受賞内容は次のとおりです。

（研究推進部産学連携課）

### 文部科学大臣賞

事 例 名：動く腫瘍をピンポイントで狙う「4次元動体追跡型」陽子線治療装置の開発と普及

受 賞 者：白土博樹 医学研究科 教授

梅垣菊男 工学研究院 教授

中村文人 株式会社日立製作所ヘルスケア社粒子線治療事業部 事業部長

平本和夫 株式会社日立製作所研究開発グループ 技師長

辻井博彦 国立研究開発法人放射線医学総合研究所 フェロー



受賞者の記念撮影



文部科学大臣賞を受賞した白土教授



文部科学大臣賞を受賞した梅垣教授

## 独立行政法人日本学術振興会 平成26年度特別研究員等審査会 専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から2名



左から喜多村高等教育研究部長、清水准教授、鈴木教授、川端理事・副学長

7月31日（金）、独立行政法人日本学術振興会より、平成26年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は、書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員等として、対象者約600名の中から114名が選

ばれ、本学からは、高等教育推進機構の鈴木 誠教授及びメディア・コミュニケーション研究院の清水賢一郎准教授の2名が表彰されました。

表彰の伝達式は9月1日（火）に川端理事室で行われ、喜多村昇高等教育推進機構高等教育研究部長も出席し、

川端和重理事・副学長より鈴木教授及び清水准教授へ表彰状と記念品が手渡されました。

（研究推進部研究振興企画課）

## 札幌キャンパスを駆け抜ける —2015北海道マラソン—



優勝を争う男子トップ集団



女子優勝の岡田 唯選手

2015北海道マラソンが、8月30日(日)に札幌市内で開催され、過去最多の男女約1万4千人※のランナーが本学札幌キャンパスを駆け抜けていきました。当日は秋の気配が感じられる青空の下でのレースとなりました。

ランナーたちは、レース終盤の38km付近から本学構内に入り、北キャンパスから札幌農学校第2農場の側を駆け抜け、メインストリートの緑のトンネルを縦断中に40km地点を通過。

クーク像のあるロータリーを左折し、右手に見える緑鮮やかな中央ローンの木陰を通り、札幌農学校時代の正門を移設した南門を出て、北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)を正面に見ながら、ゴールの大通公園を目指してラストスパートをかけていきました。

2009年大会からコースに加えられた本学の緑あふれる美しいキャンパスには、大勢の市民が駆けつけ、その温かい声援や激励、涼やかな景色が、ゴ

ルまで残り約2kmの苦しい場面にある選手たちの最後の力走を後押ししました。

なお、本マラソンの様子は、UHB・北海道文化放送とBSフジで生中継されました。

※フルマラソンの参加者数

(総務企画部広報課)



緑のトンネルを駆け抜けるランナー



涼やかな中央ローン横を力走するランナー



温かい声援や激励で迎える多くの方々



# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	17,417件	3,034,360,637円
基金累計額（8月31日現在）	教職員の寄附率	35.4%（1,402件/3,962人）

## 8月のご寄附状況

法人等5社、個人143名の方々から2,159,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

旭川レディースクリニック、鷺沼整形外科クリニック、鳥田内科小児科、医療法人社団 博仁会 手稲山クリニック、北海道武蔵女子短期大学

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	芦田 庄司	阿部一九夫	石井 孝久	石野 悟司	石野 晴美	石原夕起子
伊勢かがり	井関 健	市川 聡	入澤 秀次	江上 蓉子	小内 透	小原 大和	帰山 雅秀
勝山 新弥	金川 眞行	梶島 孝典	亀貝 一義	河本 充司	木島 英夫	黒柳 雄二	河野 透
斉藤 久	桜井 謙介	佐々木亮子	佐藤 優子	佐藤 夕紀	三升畑元基	清水 智之	下井 隆史
菅原 満	鈴木 康弘	須田 孝徳	瀬名波栄潤	高橋 泰廣	武田 和也	丹野千枝美	土家 琢磨
寺澤 陸	豊田 威信	中川 芳三	仲西 正憲	中根 明夫	中村 敬	中村 隆一	西谷内力世
橋爪 幸正	橋本 英樹	畑 健一	古堅 彩子	松田 正	美多 剛	八木 美沙	山内 隆嗣
吉田 広志	脇本 敏幸						

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

芦田 庄司

### 感謝状の贈呈

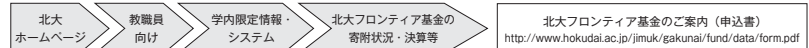


北大山とスキーの会 様（平成27年9月4日）

#### ご寄附のお申し込み方法

##### ①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



##### ②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

##### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

##### ④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

# 平成27年度オープンキャンパスを開催



来場者で賑わう中央道路



工学部「自由参加プログラム」の様子



理学部「自由参加プログラム」の様子

8月1日(土)から4日(火)までの4日間、札幌・函館の両キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催しました。

期間中の延べ来場者数は昨年度を690人上回る12,146人となり、過去最高を記録しました。

主に2日(日)に開催した「自由参加プログラム」では、高校生だけでなく、多くの保護者や市民の方々が学部・学科紹介や研究室訪問に訪れました。

また、11の学部等では実験や体験ゼミ等による「高校生限定プログラム」

を主に3日(月)に開催し、参加した高校生等にとっては大学における学びの一端を味わう貴重な機会となりました。

(アドミッションセンター)

## 来場者数

	自由参加プログラム	高校生限定プログラム	部局等別合計
文学部	820	93	913
教育学部	339	93	432
法学部	889		889
経済学部	483	173	656
理学部	1,813	107	1,920
医学部医学科	560	92	652
医学部保健学科	778		778
歯学部	92	60	152
薬学部	1,122		1,122
工学部	1,083	336	1,419
農学部	705	161	866
獣医学部	754	58	812
水産学部	354	69	423
環境科学院	44		44
附属図書館(本館・北図書館)	427		427
国際本部	138		138
進学相談会 特別修学支援室	479		479
高等教育推進機構		24	24
総計〔人〕	10,880	1,266	12,146



## 「北海道大学進学相談会」を東京で開催

本学単独主催の「北海道大学進学相談会」を8月22日（土）に東京で開催しました。

本相談会は平成19年度に東京で初開催して以降、今年度で9回目の開催となり、東京での開催は昨年度に引き続き8月としました。

会場では山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長をはじめ、各学部やアドミッションセンターの教職員、在学生等、合わせて約70名が、高校生等やその保

護者への説明・相談に当たりました。

当日は、総長挨拶を皮切りに、全体説明として新田理事・副学長が本学の魅力について説明を行い、その後、喜多村昇アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明、山口淳二新渡戸カレッジ副校長による新渡戸カレッジについての説明等を行いました。また、それと並行して、全12学部のブースや、在学生との対話コーナー等において個別相談対応

を行い、多くの高校生・保護者等がブースを訪れていました。

来場者数は982名で、昨年度を大きく上回りました。

この後、10月10日（土）に名古屋で、翌11日（日）に大阪で、同じく開催します。

（アドミッションセンター）



全体説明で挨拶する山口総長



本学の魅力について説明する新田理事・副学長



来場者で賑やかな会場内



学部相談ブース



入試・総合相談



北大生と話そうコーナー

## 現代日本学プログラム課程特別講演会を開催

現代日本学プログラム課程では、7月から8月にかけて、現代日本における幅広い知識を学ぶことを目的として、様々な分野で日本研究を行う方を招いた特別講演会を全3回にわたり開催しました。

7月10日（金）の第1回目は、アリゾナ大学のナサニエル・スミス助教より現代日本の右翼・排外活動について、7月24日（金）の第2回目は、テキサス大学オースティン校のジョン・

トラペーガン教授より日本の地方起業及び地方移住の現状について、そして8月7日（金）の第3回目は、メリーランド大学のミッシェル・メイソン准教授より文学的描写からみる開拓期北海道について、ご講演いただきました。

全講演にわたり、本プログラム課程学生をはじめ数多くの学生らが参加し、各回とも参加者は積極的にメモを取り、質問や意見交換が繰り広げられました。

本プログラムでは今秋10月にも特別講演会を予定しており、全学生が参加可能です。

詳細はウェブサイトにてご案内しますので、ご確認の上、ぜひご参加ください。

◆<http://www.oia.hokudai.ac.jp/mjssp/>

（国際本部国際教務課）



第1回：アリゾナ大学 スミス助教



第2回：テキサス大学オースティン校  
トラペーガン教授



第3回：メリーランド大学 メイソン准教授  
トラペーガン教授

## 現代日本学プログラム課程学生が新十津川町観光資源発掘に協力



記念撮影

現代日本学プログラム課程では、8月17日（月）から21日（金）まで、北海道新十津川町で観光資源の発掘を目的としたワークショップを行いました。

このワークショップは、新十津川町が取り組む新しい観光資源発掘事業に協力する形で実現し、同課程1年生の留学生8名（アメリカ、カナダ、シンガポール、香港、ベトナム）が、引率

した担当教員のスザンネ・クリーン准教授とともに、熊田義信町長を表敬訪問しました。

その後、町内の観光、文化施設の見学、農業体験等を通じ、外国人の目や感覚で新十津川町の魅力・課題を探し出し、最終日に行った発表会では、留学生が町での滞在の感想や観光振興への提案を発表するとともに、集まった

町役場職員、町民らと交流を深めました。

今回のワークショップは、新十津川町の観光資源発掘への協力のみならず、留学生が北海道を知る大変有意義な機会となりました。

（国際本部国際教務課）

## 留学生センター日本語研修コース修了式並びに同コース、日本語・日本文化研修コース（日研コース）及び北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）合同修了祝賀会を開催

国際本部留学生センター日本語研修コース研修生の修了式を、8月10日（月）午後4時30分から国際本部大会議室において行いました。

この日本語研修コースは、大使館推薦の国費外国人留学生に対して大学院進学前の予備教育として開設している6か月間の研修コースで、今回修了した研修生は、本年4月に入学した9か国からの10名です。10月からは、7名が本学の研究科等で、3名が帯広畜産大学で、引き続き学ぶことになっています。

修了式では、留学生センター教員や指導教員が見守る中、川野辺創国際本部副本部長から留学生一人ひとりに修了証書が授与されました。

続いて、川野辺国際本部副本部長より日本語でお祝いの言葉があり、学生は6か月間日本語を学んだ成果を生かして、日本語のスピーチを聞きとろう

と真剣に聞き入っていました。

最後に集合写真を撮影しましたが、その後もしばらく学生たちは、指導教員やこの半年間で親しくなった学生同士で、お互いに写真撮影を続けていました。

修了式に引き続き、午後5時から、同コースのほか、昨年10月に入学した日本語・日本文化研修コース（日研コース）と昨年10月及び今年4月に入学した北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）の合同修了祝賀会が開かれ、留学生センター教員や指導教員も合わせて約144名が出席しました。

日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部在籍している協定校の留学生に対して日本語、日本文化、日本事情に関する教育を行う1年間の研修コース、HUSTEPは、本学の協定校に在籍する学生に対して原則として英語による授業を実施する

プログラムです。各コース等から参加した学生数は、日本語研修コース研修生10名、日研生49名、HUSTEP生73名でした。

祝賀会は、山下好孝留学生センター副センター長の発声による乾杯で始まり、修了生は、学生同士はもちろん、お世話になった先生方とも語らい、楽しい時を過ごしていました。

途中、各コースの代表者が、すっかり上達した日本語のスピーチで日本語の勉強や本学での楽しかった学生生活の思い出などについて語り、祝賀会を盛り上げました。最後に留学生センターの小林由子教授からお祝いの言葉があり、祝賀会が終了しました。終了後も、多くの学生が名残惜しそうに歓談したり、写真撮影をしたりしていました。

（国際本部国際教務課）



修了証書を受け取る学生



集合写真（日本語研修コース）



祝賀会でのHUSTEP学生代表挨拶



## 日本語教授法ワークショップを開催

7月27日（月）から7月31日（金）までの5日間、国際本部留学生センターにおいて、日本語教授法ワークショップを開催しました。

この催しは、本学と大学間交流協定を締結している協定校で日本語教育に携わっている先生方をお招きし、協定校における日本語教育をより一層充実したものにするためのお手伝いをするとともに、協定校の日本語教員と本学留学生センターの日本語教員の交流を図ることを目的に開催しています。平成20年にスタートした本ワークショップも、本年度で8度目の開催となり、今回は、中国、タイ、インドネシア、ロシアそしてベルギーの協定校より、10名の先生方が参加しました。

初日の開講式では、寺尾宏明留学生センター長から歓迎のメッセージがありました。留学生センター教員及び参加者が自己紹介をする際には、各々の

指導環境などについての簡単な報告もあり、参加者は熱心に聞いていました。その後行われた交歓会でも、留学生センターの教員と参加者は、互いの経験や状況などの情報交換をしながら親交を深めました。

2日目からのワークショップでは、留学生センターの3名の教員による、「授業に使える日本語の歴史」「授業に使えるICTスキル」「音声の指導」「文法の指導」「認知心理学の観点から見た日本語学習支援—動機づけを中心に—」という講義や、参加者の発表、授業見学が行われました。参加者からは今後の授業で活用したい、自国ではあまり聞くことのない講義題目だったので大変勉強になった、などの感想を得ました。

また、期間中、講義や課外行事を通して、留学生センターの教員と参加者の間で活発な意見交換や情報交換が行

われました。その他、学内ツアーや市内ツアーでは、参加者は本学や近隣の施設、札幌における留学生の住環境などについて熱心に見学し、自校の学生に本学への留学を安心して勧めることができると感じたようです。すでに本学に留学している学生と会い、こちらでの実際の生活・学習環境についてヒアリングをされた先生もいました。

最終日の閉講式では、山下好孝留学生センター教授より総括があった後、一人ひとりに修了証書が手渡されました。各々が今回得たワークショップでの成果を自校に戻って活用したいと述べ、また、これからの互いの交流を約束し、ワークショップは好評のうちに終了しました。

この催しは来年度以降も引き続き開催していく予定です。

（国際本部国際教務課）



集合写真



ワークショップ2日目：  
授業に使える日本語の歴史



授業見学の様子

## 平成27年度教員免許状更新講習を開催

8月1日（土）から8月14日（金）にかけて、今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

現在教員免許を持っている現職教員等は、10年ごとに設定される修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域においては12時間、選択領域においては18時間）を受講・修了し、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請

する必要があります。本講習制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために、平成21年4月1日に導入されました。

平成21年度以降、本学では毎年講習を実施しており、今年度も様々な学校種の教員等を対象として、全7講習を

開催しました。夏休み期間を中心に開催したことや、バラエティに富んだ内容の講習を開設したこともあり、必修領域の受講者数は120名、選択領域の受講者数は6講習あわせて241名の方々の参加がありました。

講習では、担当講師からのオリエンテーションの後、各テーマに関する講義や実習が行われ、講習のまとめとして修了認定試験を行いました。講習

後に寄せられたアンケートでは、「学び直しの良い機会であった」「自分の中で変化がよく実感できた」「今後も良い理論を使って児童の前に立てるように学んでいきたい」などの意見が

あった他、実習を主とする講習の受講者からは、「教員として新しい探求活動ができる題材を多く得ることができた」などの意見が寄せられ、本講習の意義を改めて感じる良い機会となりました。

なお、今年度開催した講習は以下のとおりです。受講者の皆様、大変お疲れ様でした。

(学務部学務企画課)

今年度開催した講習

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方途	8/12・13	12時間	120人	120人
選択	特別支援教育	8/14	6時間	120人	116人
	日本語とその周辺	8/1	6時間	50人	36人
	集団討議形式による授業の進め方	8/6	6時間	50人	48人
	数学の多様性	8/14	6時間	30人	18人
	理系の応用技術：工学の世界	8/6	6時間	40人	13人
	練習船による水産科学実習	8/2～8/4	18時間	8人	8人



「練習船による水産科学実習」の様子

## 第2回新任教員向けキャンパスツアーを開催

8月11日(火)、本学に着任して5年以内の教員(以下、新任教員)を対象とした学内の案内及び教育・研究に役立つ学内施設・システムの活用法に係る研修を行いました。

この研修は、新任教員のために、学生ガイドによる案内のもと広いキャンパス内のことを知る機会、教育・研究活動を行うに当たり活用できる本学のリソースに関する情報を学ぶ機会、そして部局を超えた交流を行う機会として、昨年度より実施しています。午前の第1部はキャンパス巡り、午後の第2部は座学を主にした研修として実施し、第1部、第2部合わせて、新任教員29名が参加しました。

第1部開始と同時に激しい雷雨に見舞われたため、残念ながら当初予定していた徒歩による散策を行うことができず、最後までバスに乗ったままキャンパス内を移動しましたが、ガイド役の学生2名がキャンパス内の様々な場所にまつわる多彩な情報とともに案内してくれたおかげで、予定どおり90分間で学内を回ることができました。

午後からの第2部では、最初に4月にオープンしたばかりの北図書館西棟において、図書館職員から「教育・研

究に役立つ図書館の活用法について」と題した研修を受け、その後、図書館職員の案内のもとグループに分かれて館内を見学しました。

次に、場所を高等教育推進機構E棟に移し、情報基盤センターの重田勝介准教授から「北海道大学の教育情報システム(ELMS)の利用について」と題してELMSの概要と授業での活用方法について研修がありました。その後は分科会として2教室に分かれ、URASTEーションの和田肖子URAから「北海道大学URASTEーションの活動」、産学・地域協働推進機構の寺内伊久郎特任教授から「北大教員が知っておくべき知財制度と学内ルール」、オープンエデュケーションセンターの藤田良治准教授から「授業におけるオープンエデュケーション活用法」、事務局から「SSOシステムの使い方」について研修が行われ、参加者はそれぞれ2つを選択して受講しました。

午前中の雨の影響により第3部の交流会は中止となりましたが、新任教員にとっては本学について知る良い1日になったことと思われま

(高等教育推進機構)



図書館の活用法について説明する図書館職員



ELMSについて説明する重田准教授



熱心に説明を聞く受講者

## 函館キャンパスで障害学生支援研修会を開催

8月28日（金）、函館キャンパスで特別修学支援室主催の障害学生支援研修会を開催しました。

平成28年4月より障害者差別解消法が施行され、国立大学法人は対応要領の作成、障害学生や大学施設を利用する障害者への合理的配慮の提供が義務化されます。

このような社会背景の中、第1部は、教育学研究院の松田康子准教授が教職員を対象とした「高等教育機関における障害学生支援」の講義を行い、教員20名、事務職員及び技術専門職員14名の参加がありました。松田准教授から「学ぶ機会を公平に提供する」を

テーマに、高等教育における障害学生の修学状況や時代の流れ、文献電子化の支援システム構築の経緯、本学の障害学生支援への取組等が紹介されました。参加者からは「これまで障害学生を指導した経験がなく、その対応について考えたことがなかったので、参考になった」との声がありました。

第2部は、保健センターの齊藤美香講師が教員を対象とした「困難のある学生の修学支援」について講義とワークショップを行いました。ワークショップでは14名の教員がグループに分かれて困難事例を共有し、あるグループでは教員の教育的指導の範囲で配慮でき

ることと大学として配慮していかなければならないことの境界線について議論になりました。アンケートには「皆が共通の問題を抱えていることがわかった」「発達障害、精神障害の学生への対応については、もっと詳しく教えて欲しい」等の声がありました。

また函館キャンパスでは、バリアフリー化が進んでいて、スロープや後付エレベーター、北農寮には目で見えるサイレンが設置されている等、多くの発見があった有意義な研修会となりました。

(学務部学生支援課)



第1部の様子



第2部の様子



水産学部厚生会館の後付エレベーター



北農寮の目で見えるサイレン

## 第35回創成科学サロン「今、なぜ北極がホットなのか？」&夏の宴を開催

創成研究機構では、8月7日（金）、創成科学研究棟1階レストランポプラにおいて、北キャンパス地区に集う研究機関同士の交流を目的として、第35回創成科学サロン並びに懇親会「夏の宴」を開催しました。

今回で35回目の開催となる当サロンでは、今年4月に開設されたばかりの北極域研究センター初代センター長の齊藤誠一教授から組織紹介と今後の計画などについてお話がありました。

サロンには、約50名の参加者があり、はじめに、川端和重理事・副学長

(創成研究機構長)による開会の挨拶があった後、北極域研究センターの齊藤センター長による「今、なぜ北極がホットなのか？」と題した講演が行われ、同センター設立の経緯、具体的な

活動計画などについて、活発な質疑応答が行われました。

サロン終了後は、引き続き、懇親会「夏の宴」が行われました。夏の宴は、ゴスペルミニライブから始まり、



川端理事・副学長による挨拶



北極域研究センター 齊藤センター長による講演



北キャンパス地区の研究機関や創成研究機構の各部門の代表による1分間の組織紹介が行われるなど、終始和やかな雰囲気のもと、参加者たちは学内外との親睦を深めていました。

(創成研究機構)



会場の様子



「夏の宴」ゴスペルミニライブ

## イノベーション・ジャパン2015に出展

8月27日(木)・28日(金)の2日間、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が主催となり、イノベーション・ジャパン2015が東京ビッグサイトにて開催されました。

イノベーション・ジャパンは、大学の研究シーズと産業界の技術ニーズを

結びつける国内最大のマッチングイベントであり、今回で12回目の開催となります。400件を超える大学等の研究成果が一同に集結し、「情報通信」「環境保全・浄化」「ライフサイエンス」「低炭素・エネルギー」「医療」「マテリアル・リサイクル」「装置・デバイス」「シニアライフ(高齢社会)」「ナノテクノロジー」「防災」

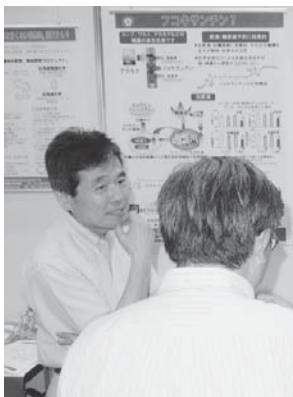
の10分野に分けて展示されました。

各ブースとも企業関係者や研究機関関係者らが数多く訪れ、展示内容について熱心に質問し、意見交換を行いました。終日、人の流れは途切れることなく、本学の最先端の研究成果を産業界に広くアピールできた2日間でした。

(研究推進部産学連携課)

### 本学出展の4テーマ

- ・水産科学研究院 教授 宮下 和夫  
【ライフサイエンス】「海からの贈り物：フコキサンチン」
- ・地球環境科学研究院 教授 森川 正章  
【低炭素・エネルギー】「次世代バイオマスとしてのウキクサの魅力とその増産技術」
- ・農学研究院 准教授 藤野 介延  
【ライフサイエンス】「ルチン豊富な苦くない苦蕎麦、満天きらり」
- ・農学研究院 助教 佐分利 亘  
【ライフサイエンス】「ミルク生まれの機能性オリゴ糖エピラクトース」



宮下教授



森川教授



藤野准教授



佐分利助教

## 平成27年度「ふるさと北海道応援フォーラム」に参加

8月19日（水）、ホテルメトロポリタン エドモント（東京都千代田区）において「ふるさと北海道応援フォーラム」が開催され、約270名が参加しました。主催は北海道及び北海道企業誘致推進会議で、後援が本学他多数の機関、協力が北海道大学連合同窓会です。このフォーラムの第1回目は、本年の2月に同じ場所で行われ、予想を大きく上回る参加者（約250名）があったもので、今回が第2回目となります。

本フォーラムの目的は、「地方創生」の議論が活発に行われている中、道外で活躍されている北海道出身の企業関係者や道内大学出身者等、北海道にゆかりのある方々を対象に、北海道の「今」をお伝えし、ふるさと北海道を懐かしんでいただくとともに、ビジネスフィールドとしての北海道の魅力をお伝えすることにあります。

本フォーラムは2部構成となっており、第1部では各機関がプレゼンテーションを行いました。まず、「本道にゆかりの企業人からの講演」として、株式会社日立製作所相談役の川村 隆氏が、次に「道内自治体における取組のプレゼンテーション」として和寒町長の奥山 盛氏、北海道三笠高等学校校長の高瀬雅朗氏がプレゼンテーションを行いました。また、「道内大学からのプレゼンテーション」として、本学の川端和重理事・副学長、小樽商科大学ビジネス創造センターの北川泰治郎副センター長が発表しました。次に、「クラウドファンディングによる北海道への投資のご案内」としてミュージックセキュリティーズ株式会社代表取締役の小松真実氏が発表しました。続いて、北海道の高橋はるみ知事からのご挨拶があり、最後に、高橋知事よ

り「北海道ふるさと応援大使」として、JR東日本株式会社顧問の松田昌士氏、株式会社日立製作所相談役の川村氏、JFEエンジニアリング株式会社相談役の岸本純幸氏の3名が任命されました。

第2部は交流会で、会場内には本学の他、道内市町村などのブース展示があり、道内の食材を中心とした食事を楽しみながらの懇談となりました。

本学のブースには、多くの本学OBや企業関係者が来訪し、活発な意見交換や情報交換で大いに盛り上がりました。本学OBの多くは、本学、そして北海道に対し、特別な想いがあることが感じられました。今回のフォーラムで北海道への企業誘致にますます拍車がかかるものと期待しています。

（産学・地域協働推進機構）



第1部：セミナー会場の様子



第1部：川端理事・副学長のプレゼン



第1部：3名の北海道ふるさと応援大使と高橋知事（右側）



第2部：交流会の本学ブース展示の様子



第2部：交流会会場の様子

## ■ 部局ニュース

# 歯学研究科・歯学部がカロリンスカ研究所歯学研究科と 部局間交流協定を締結

8月5日（水）、スウェーデン・カロリンスカ研究所よりMats Trulsson 歯学研究科長、Peter Svensson客員教授を本学歯学研究科へお招きし、部局間交流協定を締結しました。

カロリンスカ研究所は医科・歯科に特化した研究・教育機関で、医科系ランキングでヨーロッパ第2位、学部と

して世界第1位と大変高名な機関です。

今回の部局間交流協定締結により、本学学生のカロリンスカ研究所への留学が容易となり、また相手先教員の今後の招聘、講演会、交流会を通じた本学における講義の質の向上、教員の教育の質の向上、学生の学習・研究意欲をかき立てることなどが期待できま

す。留学生による共同研究、発表等で実績を積み重ねていきたいと考えています。また、医学研究科と連携し、大学間交流協定締結へのステップアップなどさらなる発展を期待しています。

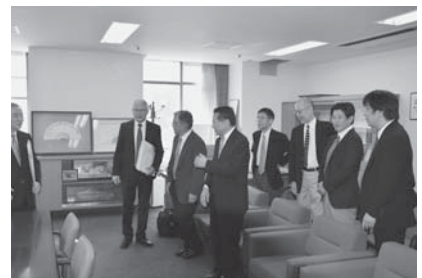
（歯学研究科・歯学部）



協定書にサインをするTrulsson 研究科長（左）と横山敦郎歯学研究科長



調印後のTrulsson 研究科長（左）と横山研究科長



調印後、雑談するTrulsson 研究科長と歯学研究科教授



## 教育学部でESDキャンパスアジア・プログラム2015 (北大プログラム) を開催



北大プログラム終了後の集合写真

教育学部では、「社会の持続可能な発展にとって教育のもつ役割は何か？」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育) キャンパスアジア・プログラムを、韓国・高麗大学校とソウル国立大学校、中国・北京師範大学及びタイ・チュラロンコン大学と連携して、2011年から毎年開催しています。

今年度の北大プログラムは8月19日(水)から28日(金)までの10日間の日程で開催しました。2日目には韓国・高麗大学校の権大鳳教授(教育学)をお招きし、世界で活躍する人的資源について、基調講演を行いました。

その後、学生たちは大学ごとのグループに分かれ、自国の人材育成の課題と現状を報告し、意見交換を行いました。5日目にはフィールドワークのため、1泊2日の日程で日高管内平取町を訪れました。平取町ではアイヌ民族の伝統的な舟下ろしの儀式「チブサンケ」に参加し、事前学習で学んだ内容をもとにアイヌ民族文化に対する更なる理解が深まりました。8日目の午後からは4カ国の学生たちが5つのグループに分かれ、英語での発表に向けて準備を行いました。グループ発表では、性的マイノリティ、自殺、環境問題などをテーマに発表し、自国での現状と照らし合わせ、白熱した議論が行

われました。グループ発表終了後はアジアの4大学の学生に修了証書と記念品の授与が行われました。立食形式での夕食会の最後には参加者全員での記念撮影が行われ、実りのある交流がもたれました。

今後は北大生側が4大学を訪れ、各大学で今回同様のプログラムに参加し、最終報告会を経て今年度の全日程が終了する予定です。本プログラム終了後、5年先10年先と学生たちの繋がりが継続し、社会の持続可能な発展のために寄与されることが期待されます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



講演する権教授



チブサンケに参加する学生

# 水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を実施



集合写真

8月2日（日）に函館キャンパスにおいて「ヤドカリのオスの婚活をのぞいてみよう」を開催しました。これは科学研究費助成事業「基盤研究（C）：ヤドカリの配偶者選択：他個体との遭遇履歴を社会情報として利用するか」（研究代表者：和田 哲准教授）による成果をもとに、本学の科学研究の一部を体験してもらうプログラムです。

高校生を対象に募集し、遠方は熊本県や東京都等、道内外から訪れた8名の高校生を参加者に迎え、今年3月に竣工したばかりの新・管理研究棟において実施しました。開講式のあと、「行動生態学入門：ヤドカリの基本生態」と題した講義を行い、ひらめき☆ときめきサイエンス事業や科学研究費に関する説明を行った後に、行動生態学の基本的な考え方や、ヤドカリの生態に関する基礎的な知見、今回行う実験の手順などを説明しました。

その後、参加者が自ら実験を行い、ヤドカリの配偶者選択やメスをめぐるオス間競争の行動観察や、オスは自分がガード中でも、他のオスがガードしているメスを調べる行動を示すことを観察しました。参加者は大変熱心に観察をしていました。

講義や実験の途中に挟んだ昼食やクッキータイムでは、当日スタッフとして参加していた水産学部の学生や講

師、また参加者同士が、和やかな雰囲気の中で交流を図りました。

予定していた全ての実験が終了した後、昨年度、本学で学位を取得し、本事業の講師として招いた石原千晶博士（日本学術振興会PD（和歌山大学））にヤドカリの評価と個体識別に関する講演をしていただきました。石原博士には、さらに本学で卒業研究を始めた頃の話や大学院での研究生活で嬉しかったことなども紹介していただき、高校生である参加者にとって、大学での研究生活を知る良い機会になったと思います。最後に、修了式で修了証書の授与を行い、記念に集合写真を撮影して閉講となりました。

本プログラムを通して、参加者は、希少なサンプルや高額な機械がなくても、身近な道具を使って身近な動物を観察することにより、おもしろい現象を発見したり、感じた疑問を自分なりに追求することが出来るということを学び、「研究」というものをより身近に感じてもらえたと思います。

最後に、参加者募集から当日のサポートまで尽力してくださった教職員・学生並びに講師の方々に心より感謝申し上げます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



ヤドカリオスの配偶者選択やメスを巡るオス間競争の行動観察



クッキータイムの様子



ヤドカリの評価と個体識別に関する講演



修了証書授与



## 平成27年度水産学部公開講座「津軽海峡学」が終了

水産学部では、7月4日（土）から8月22日（土）に、全6回の公開講座「津軽海峡学」を開講しました。

北海道新幹線の開業を目前に控え、密接な人・物・文化の交流と経済連携による津軽海峡新時代の到来に期待が高まる中、津軽海峡をメインテーマとした公開講座は大きな関心を集め、募集を開始した直後から市民や新聞社から問い合わせが相次ぎました。

本講座では「津軽海峡通過流の変動とその動力学」「津軽海峡圏の縄文文化」「津軽海峡はさかなたちの交差点」「鳥から見た津軽海峡：分断と連結」「津軽海峡とイルカ・クジラ」「津軽

海峡圏を中軸とした食の成長戦略と地域振興」と題し、津軽海峡の海洋環境、人・物・文化の交流史、多様な生物たちの生態、新たな北東北・道南の一次産業プロジェクトなど、様々な視点から捉えた津軽海峡の姿について講義を行いました。

受講生は、身近にありながら初めて知る津軽海峡の多彩な話題に熱心に聞き入り、毎回、多くの質問が寄せられました。質疑応答の時間が足りず、講義の後も講師を囲んで意見交換が続き、講師にとっても地域住民の津軽海峡への関心の高さを再認識する貴重な機会となりました。

最終日には4回以上出席した44名の受講生に安井 肇研究院長から修了証書が手渡され、延べ282名が受講した本講座は成功裏に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



講義の様子



修了証書授与



質疑応答の様子

## 法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「表現の自由と秩序」が終了

法学研究科及び附属高等法政教育研究センターでは、7月23日から8月20日までの毎週木曜日（8月13日を除く）全4回にわたって、公開講座「表現の自由と秩序」（道民カレッジ連携講座、札幌市教育委員会後援）を開講しました。

本講座は一般市民を対象に毎年夏に行っているもので、昭和58年度の初開催以来の恒例行事となっています。今年度も当初予定定員50名を上回る65名の受講者を得ての開催となりました。

全4回の講座では、近年深刻さの度合いを増している「表現の自由」をめぐる様々な問題について、比較政治、西洋法制史、民法学、法社会学のそれ

ぞれの観点から講義が行われました。

講義では、インターネット等のメディア革新により変容していく社会と、そこに生まれる新たな対立、「自由」という概念への根本的な問いなど、現在世界中で発生している「表現の自由」にまつわる諸問題についての経緯や背景、今後の課題について語られ、受講者からも活発な意見が寄せられました。

最終講義の終了後には閉講式が行われ、尾崎一郎高等法政教育研究センター長から所定の回数（3回以上）を受講した56名に修了証書が授与されました。

本講座は長年にわたって参加されて



長谷川晃法学研究科長より開講の挨拶



尾崎センター長より修了証書の授与



いる熱心な受講者が多く、毎年60代以上の方を中心に安定した支持をいただいておりますが、今年度は、パンフレット配布範囲の拡大、Eメールによる申込受付などを行い、新たな受講者層の

開拓も試みました。結果、例年に比べ20～30代の新規受講者の割合が増加するなどの成果が見られました。今後も、広報・受付体制の充実を図るとともに、市民の関心を喚起し、思考の一

助となるような魅力的なテーマを提供し、さらに多くの方に参加してもらえよう努めていく方針です。

(法学研究科・法学部)

「表現の自由と秩序」

第1回 7月23日(木)

「『シャルリ・エブド』と表現の自由を考える—移民、風刺、宗教」 法学研究科・公共政策大学院准教授 吉田 徹

第2回 7月30日(木)

「大学の歴史から見た学問の自由」 法学研究科教授 田口 正樹

第3回 8月6日(木)

「表現の自由と民法」 法学研究科教授 池田 清治

第4回 8月20日(木)

「ヘイト・スピーチと表現の自由」 法学研究科附属高等法政教育研究センター長・教授 尾崎 一郎



第1回：吉田准教授



第2回：田口教授



第3回：池田教授

## 法学研究科でサマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・商標・意匠等—」を開催

法学研究科では、8月20日(木)から23日(日)までの4日間、人文・社会科学総合教育研究棟において、サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・商標・意匠等—」を開催しました。

本セミナーは、日本弁理士会から弁理士の継続研修のための外部研修機関としての認定を受けて、平成21年度から毎年度開催しているものです。その実績が認められ、平成26年度には、文部科学省による「法科大学院公的支援見直し加算プログラム」の審査において、本セミナーは「知的財産法領域における社会的ニーズに即応した『実効的な継続教育プログラム』の実施」であることを理由に「特に優れた取組」とであるとされました。

第7回目となる本年度は、本研究科の田村善之教授、外部招聘講師の岡本

岳氏(札幌高等裁判所部総括判事)、青木博通氏(ユアサハラ法律特許事務所弁理士)及び福井健策氏(骨董通り法律事務所弁理士)によって、著作権・不正競争・商標・意匠等に関する実務的課題につき、数々の重要裁判例を踏まえて分かりやすく講義されました。受講者は、知的財産事件に携わる実務家(弁理士、弁護士、企業の知的財産部員等)ばかりでなく、大学教員、大学院生、高校生など幅広い分野

にわたり190名を超えました。今年度からは、修士課程の授業としても開講されています。受講者は熱心に受講されるとともに、講義の最後の質疑応答では現実に即した様々な質問に対し、各講師は丁寧に答えられていました。本年度のサマーセミナーも多くの温かい反響をいただいた中で盛会裡に終了しました。

(法学研究科・法学部)



講義を行う田村教授



講義初日の様子

# 公共政策大学院が「地方議員向けサマースクール」を開催 —地方自治体における空き家対策のあり方について討議—

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、8月17日（月）・18日（火）の2日間、社会貢献活動の一環として「地方議員向けサマースクール」を開催しました。

このスクールは、地方分権改革が進む中、今後ますます重要な役割を果たすことになる地方議会の活性化と議員の自己啓発・自己研鑽に資することを目的に、大学院が単独で取り組むものとしては全国初の試みとして平成20年にスタートしたものです。第8回目となる今年は、人口減少が進む中で地方自治体にとって不可欠な取組である「空き家対策」をテーマとして取り上げ、北海道内の市町村議会議員はもとより道外の市議会議員なども含め54名もの受講者が参加しました。

まず1日目には、上智大学法科大学院長の北村喜宣教授から「自治体政策法務の観点からみた空き家対策」、札幌市議会の細川正人議員から「札幌市議会における空き家等の適正管理に関する条例の検討」、札幌市都市局建築指導部監察担当課の二宮 力課長から

「札幌市における空き家等対策」、NPO法人公共政策研究所の水澤雅貴理事長から「2015年道内市町村の空き家対策に関するアンケート調査報告」と題して、それぞれ講義や事例紹介を行いました。

次いで2日目には、地方自治体の空き家対策に関する具体の事例について、秋田県大仙市の空き家対策の事例をもとに4つのグループに分かれて討議を行いました。具体的には、①大仙市が空き家対策に取り組んだ背景とその主な内容を整理した上での効果と課題の検討、②自分が関係する自治体において空き家対策に取り組む場合の留意すべきこと、解決すべき課題の検討、③自分が関係する自治体において空き家対策のあり方を検討する場合に議会として又は一人の議員としてどのように関わるべきかの検討、という3つの項目について、受講者各自の市町村における状況などを踏まえて、熱心な議論が交わされました。討議後は、全体でグループ討議の結果発表と意見交換を行いました。

受講者からのアンケートでもおおむね高い評価を受けており、地方議員の間で、ともに学び、情報を交換し、議論することができる当スクールのような場が強く求められていることを今回もうかがえたところです。

今回のサマースクールを一つの契機として、受講者がお互いに親密なネットワークを形成し、今後とも情報交換を重ねながら同志を増やしつつ、それぞれの地域で議会の活性化や地域の振興などに取り組んでいかれることを期待しています。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



講義風景



グループ討議



発表資料の作成



全体討議での意見交換

## 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで セミナーを開催



遠藤教授の講演を熱心に聴講する参加者

経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでは、進化経済学会北海道・東北部会及び小樽商科大学ビジネス創造センター地域経済研究部との共催により、7月31日（金）、本研究科研究棟3階会議室において、慶応義塾大学商学部の遠藤正寛教授（国際貿易論）を講演者に迎え、セミナー「The Effect of Offshoring on Hourly Wages and Annual Income in the Japanese Manufacturing Sector（オフショアリングが日本の製造業における賃金と年収に与える効果）」を開催しました。

今回のセミナーでは、遠藤教授が現在取り組んでおられる、日本の製造業企業を対象とした貿易と賃金に関する実証研究についてご講演いただきました。遠藤教授の研究は、日本企業のオフショアリング（企業が生産工程の一部を海外に移すこと）や輸出によって、その企業に雇われている労働者の賃金がどのように変化するかを統計データに基づいて推計したものです。

オフショアリングの増加が賃金を低下させる効果をもつものに対して、輸出の増加は賃金を上昇させる効果をもつこと、さらに、これらの効果は労働者の学歴によって違いがほとんどなく、日本の場合、オフショアリングや輸出といった貿易活動はスキルプレミアム（高学歴労働者とそうでない労働者の賃金格差）にほとんど影響を与えないことが説明されました。

この分析結果は、海外のデータを用いた同様の先行研究と比べると大きなインパクトがあります。近年、先進国だけでなく、途上国を含む多くの国でスキルプレミアムの拡大が観察され、しばしばその要因の一つとして先進国企業によるオフショアリングがあげられます。スキル集約性の高い生産活動に特化する先進国にとってはさほどスキル集約的でない生産工程であっても、途上国にとっては十分にスキル集約的である場合があります。そのような生産工程を先進国企業が途上国に移すことにより、先進国と途上国の双方

においてスキルに対する需要が相対的に強くなり、スキルプレミアムが拡大します。オフショアリングがスキルプレミアムに与えるこのような効果は、米国やメキシコなどの諸外国のデータを用いた推計において確認されています。これに対して、遠藤教授の分析結果は、オフショアリングによるスキルプレミアムの拡大は日本では観察されないことを示しており、日本の労働市場の特殊性を示唆するとても興味深いものでした。

セミナーには学内外から多くの方々にご参加いただき、質疑応答では活発な議論が交わされました。参加した研究者の顔ぶれも多様であり、それぞれの専門の立場から様々な意見や質問が出されました。今回のセミナーはそのような議論を通じて、企業活動のグローバル化とその影響について国際貿易論の枠組みを超えたより広い視野から考えるととても良い機会になりました。

（経済学研究科・経済学部）



## 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究科及び歯学研究科では、8月5日（水）に北海道大学納骨堂（豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、山口佳三総長、笠原正典医学研究科長、横山敦郎歯学研究科長ら31名が参列し、参列者全員による黙とう及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学研究科・医学部）



黙祷をささげる参列者



献花をする山口総長

## 薬学研究院が「第6回薬学研究院研究発表会」を開催

8月7日（金）に、薬学研究院第一講義室において、「第6回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は教員のプレゼンテーション能力の向上及び発表者の研究内容を他分野の教員が理解することを趣旨とした発表会で、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねた薬学研究院の恒例企画となりました。

発表会は、南 雅文薬学研究院長による開会挨拶の後、精密合成化学研究

室の美多 剛助教による「二酸化炭素を用いた新規カルボキシル化反応の開発」と題する発表及び、薬物動態解析学研究室の武隈 洋准教授による「リバーストランスレーショナルリサーチ～TDM領域から～」と題する2件の研究発表が行われました。

本発表会には教員52名が参加し、様々な分野の教員から活発な討論がありました。本発表会では、出席者にアンケートを実施しており、発表に関

して良かった点、改善点を発表者へフィードバックすることでプレゼンテーションの向上に役立っています。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーションの参考に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であるというコメントも多くあり、今後も継続していく予定です。

（薬学研究院・薬学部）



発表する美多助教



発表する武隈准教授



発表者の説明を熱心に聞く参加者

# スラブ・ユーラシア研究センターで2015年度夏期シンポジウム「ロシアとグローバルヒストリー」を開催



2日間の会議を終えて



第2セッションの様子

スラブ・ユーラシア研究センターでは、7月30日(木)・31日(金)の2日間、夏期国際シンポジウム「ロシアとグローバルヒストリー」を開催しました。今回は、幕張で翌週に開催された国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)第9回世界大会に来日されたベテランと新進気鋭の歴史家をお招きすることができ、18世紀から1980年代までのロシア・ソ連を世界史の文脈で考えるものになりました。シンポジウム前日の29日(水)には、共同利用・共同研究拠点事業「中央ユーラシア・ムスリム

の歴史・社会に関する共同研究班」の枠で、ロシア・ソ連周辺のみスリム知識人の越境的活動に関する若手研究者のセッションも行われました。

近年のロシア史研究は、ロシア帝国とソヴィエト連邦をユーラシア大陸の中に位置付ける思考を通じて、冷戦期につくられた自己充足的な像をかなりの程度克服してきました。しかしグローバルヒストリーとなると、イギリス帝国研究者が席捲し、ロシア、ユーラシアは抜け落ちるか、表層的に紹介されるにすぎません。こうした状況の克服

に少しでも貢献すべく、今回のシンポジウムの討論者には、イギリス帝国研究とオスマン帝国研究の第一線で活躍される方々をお招きしました。そのことで、提出されたペーパーでは必ずしも明確ではなかったグローバルな局面が討論の中で引き出され、整理されることがしばしば起こりました。参加者は86名(うち外国人31名)で、議論は大いに盛り上がり、今後発展させていくべき研究のヒントが多くありました。

(スラブ・ユーラシア研究センター)

## 附属図書館で北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP) 運用10周年記念展示を実施

附属図書館では、7月27日(月)から8月13日(木)の間、附属図書館正面玄関ホールにおいて、HUSCAP運用10周年記念展示を実施しました。

記念展示では、HUSCAPの10年のあゆみと、今を取り巻く状況、そしてこれからのHUSCAPについて分かり

やすく説明しました。

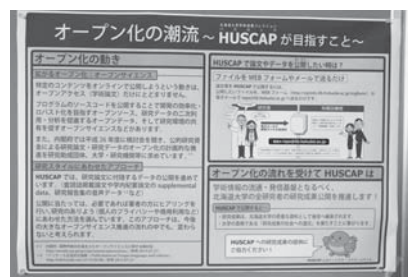
アンケートの回答では、9割以上の方から「良かった」という感想が寄せられました。

※HUSCAPとは、本学研究者の「研究成果の可視性の向上」「知的生産物の恒久的な保存」「研究成果の社会還元」などを目的

とした附属図書館の研究支援サービスのひとつです。詳しくは、以下のURLをご覧ください。研究者の方からの学術論文等の提供をお待ちしています。

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/staff/index.jsp>

(附属図書館)



記念展示ポスター

# 理学研究院国際化支援室主催・附属図書館共催イベント 第11回“Sci-Tech Talk in English : Welcome to Pluto”を開催

8月19日（水）午後4時30分から北図書館西棟2階において、第11回“Sci-Tech Talk in English : Welcome to Pluto（冥王星によろこそ）”を開催しました。“Sci-Tech Talk in English”とは、理学研究院国際化支援室（OIAS）が主催する最新の科学トピックをテーマとした英語による講演会のことです。外国人留学生、新渡戸カレッジ生を含む日本人学生、本学教職員、市民を対象として、科学教養の向上及び語学学習に対する意欲の高揚を目的としています。

11回目となる今回は、新渡戸カレッジ生の支援イベントを展開する附属図

書館新渡戸カレッジワーキンググループとの共催により、新しく出来たセミナールームを会場として実施しました。講師の理学研究院のElizabeth Tasker助教による太陽系最遠地・冥王星をテーマとした講演は、発見の経緯や、近年新たにつけられた名称「準惑星」の説明、米国NASAが推進している“New Horizon”計画といったトピックを取り上げたもので、写真や動画などがふんだんに盛り込まれた、アカデミックかつユーモアあふれる内容でした。参加者86名は、終始熱心に聞き入り、講演後の質疑応答の時間には、講師と活発なやり取りを交わす

姿が見受けられました。

また、イベント終了後には、聴講していた北海道札幌開成高等学校生6名と、独立行政法人科学技術振興機構（JST）「日本・アジア青少年サイエンス交流計画（さくらサイエンスプラン）」により来学していたベトナムの高校生12名を対象に、北図書館館内を案内しました。特に、今年4月にオープンした西棟2階のアクティブラーニングフロア、3階グローバルフロアの快適かつ刺激的な学習空間は、高校生にも大変好評でした。

（理学院・理学研究院・理学部、附属図書館）



Tasker助教の講演



質疑応答



北図書館館内ツアーの様子



# Hokkaidoサマー・インスティテュート・トライアル 「課題解決の手法を学ぶ2+2日間 (Part1)」を開催

「平成27年度トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業」の一環として、「課題解決の手法を学ぶ2+2日間」(担当教員参加部局:理学研究院,農学研究院,先端生命科学研究院,保健科学研究院,高等教育推進機構)の前半2日間を,8月22日(土)・23日(日)に工学部アカデミックラウンジ3で開催しました。これは来年度から正式に実施されるHokkaidoサマー・インスティテュートを試行するもので,15部局28名(うち大学院生・研究生15名,学外から3名)が参加しました。

本学が世界の課題解決に貢献するには,イノベーションを創出したり,社会の改革を主導する人材の育成が必要であり,そのための課題解決の様々な手法を学ぶ機会が必要です。本プログラムは,Part1:解決すべき課題の芯をつかむ(ケーススタディとリサーチ演習)2日間,Part2:課題解決のデザイン-サービスデザイン・ワークショップ(2日間)で構成され,今回,

Part1を実施しました。社会人の人材育成マネジメント教育に全国的に定評のあるグロービス経営大学院より2名の講師を本学として初めてお招きし,2日間のワークショップを開催しました。

初日の講義では「ビジネス 이슈,ソーシャル 이슈双方に通用する課題解決の手法」(山中礼二先生)の導入とワークショップから始まりました。課題解決のために新しい事業を起こすスキルやプロセスに関して,プロフィット,ノンプロフィットに関わらず,どちらの課題解決にもつながるスキルや知識を紹介していただき,事例を一緒に考えて事業化する過程を紐解いていきました。これに引き続き「課題の芯を捉えるリサーチの手法」(川上慎市郎先生)では,生活者の抱える課題が,それが本質的かつ深刻なものであればあるほど,実際の生活者自身の意識において顕在化していない(無意識の中にある)ことを認識しました。2日目は,ソーシャル 이슈の

解決のための課題の芯となる部分をインタビューで体験し,的確に構造化・言語化する手法をチームごとにまとめ,発表を行いました。これらのワークショップの体験は,Part2(10月10日・11日)のラップランド大学の講師をお招きして実施する課題解決のデザインワークショップに展開して行く予定です。

今年度から開始された新渡戸スクールでは,アクティブラーニングの導入ワークショップを実施しています。今回の企画は新渡戸スクールの発展系アクティブラーニング教育プログラム開発にも参考になるものと期待されます。

なお,この度のPart1における講義・ワークショップの様子,Part2に関する案内・申込情報は,理学研究院アクティブラーニング推進室ホームページに掲載します。

◆<http://www.sci.hokudai.ac.jp/active-learning/>

(理学院・理学研究院・理学部)



山中先生による講義



課題の芯を捉えるリサーチ演習の成果について発表する受講者

# レクリエーション

## 学内教職員ソフトボール大会の開催

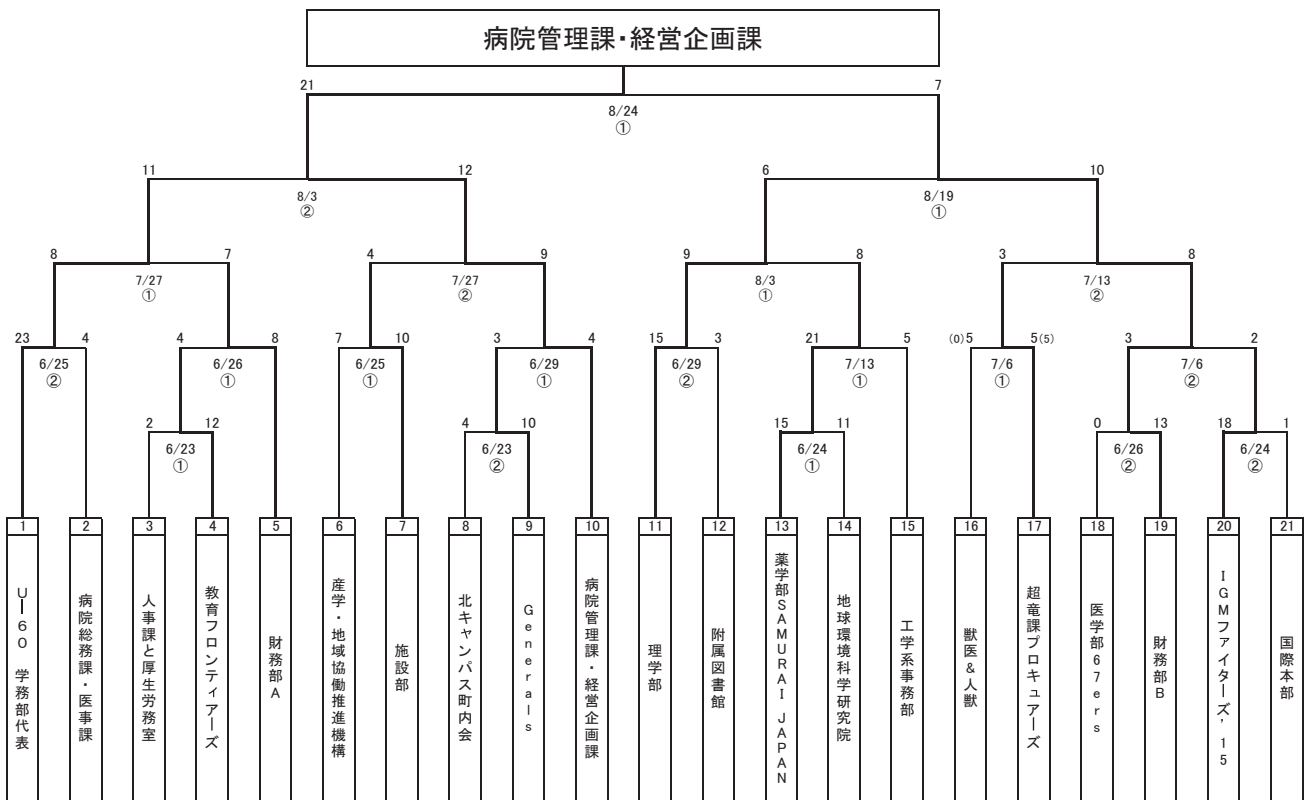
学内教職員ソフトボール大会を、6月23日（火）から8月24日（月）の約2ヶ月にわたり、北海道大学B球場で開催しました。

参加21チーム・約400名の選手により、連日熱戦が繰り広げられました。選手のみならず、応援の方々のたくさんの歓声があふれる中、「病院管理課・経営企画課」チームが見事に栄冠を勝ち取りました。

なお、対戦結果は以下のとおりです。

（全北大野球部，Re-birth）

平成27年 学内ソフトボール大会トーナメント表



優勝した「病院管理課・経営企画課」チーム

## ■ 学内規程

### 北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年8月4日海大達第223号)

学校教育法施行規則の一部が改正され、留学等については、教授会が意見を述べる事項として義務付けないこととされたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

### 北海道大学脳科学研究教育センター規程の一部を改正する規程

(平成27年8月25日海大達第224号)

センターの基幹教員の要件を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

### 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程の一部を改正する規程

(平成27年9月1日海大達第225号)

平成27年3月31日以前に医学研究科の研究科長付として採用されていた教授、准教授、講師又は助教（医学教育重点担当を除く。）について、医学研究科において引き続き任期の定めのない同一の職に採用できることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

### 国立大学法人北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号付与規程の一部を改正する規程

(平成27年9月1日海大達第226号)

ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与の対象について見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## ■ 研修

### 平成27年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）

開催期間：平成27年8月6日・7日

開催場所：人文・社会科学総合教育研究棟W407教室

研修目的：大学の教育環境のグローバル化に対応するため、外国人教員及び留学生へのサポート並びに海外連携大学担当者との業務上の十分な対応が行える職員として、高度で実践的な英会話運用能力を身につけさせ、職員の能力向上を推進することを目的とする。



受講風景

(総務企画部人事課)



## 平成27年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修

開催期間：平成27年 8月25日～27日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅技術職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務遂行に必要な知識や社会的識見等を深め、国立大学法人等の技術系業務における中核となるべき職員として、その資質向上を図ることを目的とする。



「開講式」挨拶  
(上田一郎理事・副学長(技術支援本部長))



講義「新しい時代のエネルギーおよび経済システム論」  
(近久武美工学研究院教授)



演習・グループワーク等

(総務企画部人事課)

## 平成27年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

開催期間：平成27年 8月26日～28日

開催場所：大滝セミナーハウス

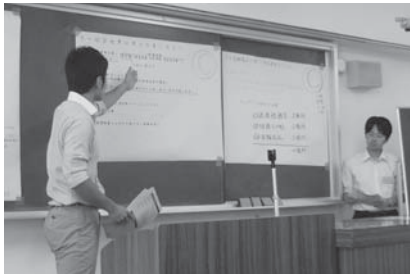
研修目的：会計事務に従事する職員に、実務に必要な本学の会計制度及び会計業務実施基準等に関する基本的知識を付与することを目的とする。



研修の様子(大学予算の現状)



班別討議



班別討議発表



修了証書授与

(財務部主計課)

## ■表敬訪問

### 国内

年月日	来訪者
27.8.28	日東電工株式会社 代表取締役 取締役会長 柳楽 幸雄 氏
27.9.17	株式会社 北海道日本ハムファイターズ 代表取締役社長 竹田 憲宗 氏, 常務取締役 球団代表 島田 利正 氏



日東電工株式会社 代表取締役 取締役会長  
柳楽 幸雄 氏 (右側)

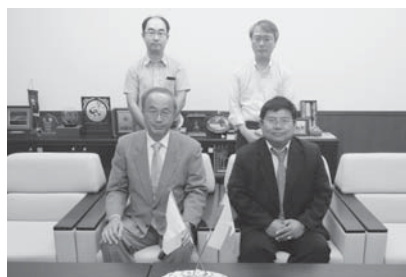


株式会社 北海道日本ハムファイターズ  
代表取締役社長 竹田 憲宗 氏 (右から2人目),  
常務取締役 球団代表 島田 利正 氏 (左側)

(総務企画部広報課)

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.9.1	ミャンマー航空宇宙技術大学 Kyi Thwin 学長	両大学の交流に関する懇談



ミャンマー航空宇宙技術大学 Kyi Thwin 学長  
(前列右)

(国際本部国際連携課)

# ■人事

## 平成27年8月11日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 金融庁	荻野 昭一	大学院経済学研究科教授

## 平成27年8月12日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院経済学研究科教授	佐々木 潔	採用

## 平成27年8月18日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	VINKE RUUD	国際連携研究教育局助教

## 平成27年8月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 新潟大学医歯学系教授	阿部 理一郎	大学院医学研究科准教授
【准教授】 (転出) 外務省 神戸大学医学研究科付属感染症センター准教授	柿澤 未知 岩切 大	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター准教授 遺伝子病制御研究所助教
【助教】 (辞職)	王 磊 野田 なつみ 瓜田 淳 吉田 力矢	大学院経済学研究科助教 大学院保健科学研究所助教 北海道大学病院助教 電子科学研究所助教
【技術職員等】 (辞職)	姥谷 実佳 後藤 なつみ 藤田 桃子 柳本 駿介 渡邊 亜美	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

## 平成27年9月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 大学院文学研究科准教授 大学院医学研究科准教授	HOMMERICH CAROLA 西江 涉	採用 北海道大学病院講師



<p><b>【講師】</b>                  大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター講師                  大学院獣医学研究科講師                  大学院農学研究院講師                  国際本部講師                  国際本部講師</p>	<p>西 本 志 乃                  岡 松 優 子                  澤 内 大 輔                  WINKLER CHRISTIAN GERHARD                  GODART GERARD RAINIER CLINTON</p>	<p>採用                  大学院獣医学研究科助教                  採用                  採用                  採用</p>
<p><b>【助教】</b>                  大学院歯学研究科助教                  大学院農学研究院助教                  大学院農学研究院助教                  大学院教育学研究院助教                  北海道大学病院助教                  人獣共通感染症リサーチセンター助教</p>	<p>高 橋 昌 幸                  津 釜 大 侑                  山 岸 祐 介                  大 谷 和 大                  新 熊 悟                  大 東 卓 史</p>	<p>採用                  採用                  採用                  採用                  採用                  採用</p>
<p><b>【主任】</b>                  メディア・観光学事務部主任</p>	<p>高 口 智 美</p>	<p>工学系事務部教務課主任</p>
<p><b>【係員】</b>                  医学系事務部保健科学研究院事務課</p>	<p>桑 村 真 美</p>	<p>薬学事務部</p>
<p><b>【技術職員等】</b>                  北海道大学病院薬剤部薬剤師                  北海道大学病院薬剤部薬剤師                  北海道大学病院看護部看護師                  北海道大学病院診療支援部臨床検査技師</p>	<p>池 本 舞                  齊 藤 奈 美                  森 田 香 織                  駒 込 香 織</p>	<p>採用                  採用                  採用                  採用</p>

新任教授紹介

平成27年8月12日付



経済学研究科教授に

さ さ き きよし  
**佐々木 潔 氏**

会計情報専攻会計情報講座

生年月日

昭和36年6月11日

最終学歴

慶應義塾大学経済学部卒業

専門分野

金融商品取引法, 会社法

## 訃報

名誉教授 谷口 和彌 氏  
(享年76歳)



名誉教授 谷口和彌氏は、平成27年8月18日逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和15年3月24日東京都に生まれ、同38年3月に北海道大学農学部農業生物学科を卒業、大阪大学大学院理学研究科生化学専攻に進んだ後、同42年4月に大阪大学理学部生物学教室教務員、同45年4月北海道大学歯学部薬理学教室助手となり、同47年9月から同49年8月米国バンダービルト大

学博士研究員、同53年5月北海道大学歯学部講師、同56年2月同助教授を経て、平成元年11月北海道大学理学部化学科教授に昇任、平成7年の大学院重点化に伴い化学専攻生命分子化学講座所属となり、同年理学研究科教授に配置換えとなりました。平成15年3月停年により退職、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、1価陽イオン輸送ポンプ（腎臓のNa/Kイオン輸送ATP加水分解酵素と胃壁細胞のH/Kイオン輸送ATP加水分解酵素）のエネルギー変換と調節の分子機構解明に尽力されました。また、従来放射性同位元素を用いた反応速度論的研究や限定的プロテアーゼ処理では想像の域を脱していなかったポンプの真時間における構造変化の実体を明らかに示した初めての成果であり、先駆的な研究となりました。

先生の1価陽イオン輸送ポンプのエネルギー変換と調節の分子機構解明に

対して、平成14年5月スウェーデンリンシェピング大学より、名誉医学博士号が授与されました。

学部生をはじめ、大学院生や若い研究者の教育・研究指導に力を尽くされ、非常に多くの優秀な博士課程修了生・修士課程修了生を輩出されてきました。

学外でも、日本生化学会理事及び評議員・北海道支部長、日本薬理学会評議員、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員等を務められ、生命科学の発展に寄与されました。

以上のように、先生は国際的なイオンポンプ研究の分野において多大な貢献をされ、多くの研究者の養成に尽力されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

## 編集メモ

●朝晩の空気が肌寒く感じられるようになり、秋の訪れを感じるようになりました。キャンパスの木々も少しずつ色づき始めています。

●本年度のホームカミングデーにも、同窓生をはじめ多くの皆様にお越しいただきました。感謝申し上げます。来年度のホームカミングデーは9月24日（土）に開催予定です。皆様のご来学をお待ちしております。







2014.9.6 札沼線 南下徳富～下徳富（新十津川町）

## 北の鉄道風景 30 移ろいゆく季節の中で

9月初旬の週末、オホーツク方面での所用のために自家用車で移動中、新十津川町に入った辺りから、実りの季節を迎えた田園の風景が車窓に広がりはじめた。走行中の国道に程近い札沼線の列車時刻を調べたところ、30分後に列車が通過することが分かった。1日あたり3往復の列車しか走らない区間で、列車の走行風景を撮影できるのは僥倖であるから、秋の田園風景を往く列車を撮影した後に目的地

へ向かうことにした。以上のような経緯で撮影したのが、この写真である。空には夏を感じさせる積乱雲が浮かぶ一方で、北の大地は豊穡の秋を迎えようとしている。夏から秋へと移ろいゆく季節の中で、何時もと変わりなく、単行列車は駆けてゆく。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑨ No.738 平成27年9月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html